

旅立ち

社会福祉法人しらとり会
利用者通信 (NO. 42)
平成 30 (2018) 年 10 月 1 日発行

今月は、5名の方からの投稿です。



同志社大学物語 — established by 1875 — (vol.4)

一浪目でわかった事は、僕は、勉強のできない子ということだった。それで、随分悩んだ末に駿台のKL (京大文系クラス) を受けたが、ダメだったので、二浪目は、広島河合塾を受ける、と言う選択肢を選んだ。何とか、河合塾東大・京大クラス (V6) に合格した。一浪の時に、同じ高校のO君が東工大に合格していた。僕は思った。京大へ行きたいと。S君も通ったのではないかと。そこから舟入南町にアパートを借りて自転車で河合塾へ通っていた。まわりは、広島学院、修道、広大付属、広大付属福山で、少し皆実やND清心の女子と、島根から在籍していたのは、自分くらいだった。

(YY)



落語・相の手都々逸

○「俺、サッカー選手の中では別格なんだぜ！」
(どうして?)

「ベツカムなんだもん！」。

○「俺、宅配業者の中では別格なんだぜ！」。
「皆から、クールな奴って呼ばれてるんだ」。

(岡本 祐子)

- 自分でお金を用意しないで経営している優秀な経営者がいる。
- 国会議員である。
- 税金と言う人が用意したお金で必要な政策ではなくやりたい政策に予算を付けている。
- 自分でお金を用意しないで経営する企業が存在出来るであろうか。
- 国会議員に経営能力があるのなら各国会議員にノルマを割り当て国家予算を作らせ、税金を廃止し、自立すればいい。
- 自分でお金を作らないから好き勝手に法律・制度・政策を作り、国会議員の思う通り権力者には暮らしやすいが国民には暮らしにくい世の中が実現している。
- 新政権つぶれる。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、10月15日(月)です。

『旅立ち』編集委員：加藤、本川、A-Z、H.A、Y.Y.